

149 ムネアカタヒバリ (スズメ目)

Anthus cervinus

兵庫県ランク: 調

繁殖個体群:無 越冬個体群:調 通過個体群:調

環境省ランク:

種の概要

北ヨーロッパ北部からシベリアのツンドラ、カムチャツカ、千島列島北部、アラスカ北西部などで繁殖し、繁殖後はアフリカ中部、南アジア北部、東南アジアなどに渡り、越冬する。日本には春秋の渡りの時期に渡来するが、本州以南では一部越冬するところがある。個体数は少ない。水田、畑、埋立地などに生息し、草の実や昆虫類を採食する。

国内分布

北海道、南千島、礼文島、利尻島、天売島、本州、飛島、粟島、佐渡、舩倉島、隠岐、竹島、見島、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、男女群島、甌島列島、宇治群島、草垣群島、屋久島、伊豆諸島、小笠原群島、西之島、硫黄列島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島

県内分布 ★…2013年以降生息が確認されている市町

★神戸市、西宮市、伊丹市、★豊岡市、たつの市、★稲美町



写真提供：北野光良

(性別：不明)

主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性	
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ねぐら休息環境・	局地的繁殖	希少
○	○	○							○

県内における生息状況およびその他特記事項

ランク変更なし。

県内では10-11月に記録がある。1960年代までは伊丹市昆陽池などで秋に単独または数羽の群れが定期的に記録されていた。他の地域での記録は極めて限られているが、非繁殖期の羽色はタヒバリに酷似するため、混同されている可能性もあり、調査が必要とされる。

保護上の留意点

県内における分布および生息に関する調査が必要。また、農耕地や河原の湿地環境の保全が重要。